

カン、カン、カン。 このまちの記憶が刻まれる。

桐乃華工房 茨城県伝統工芸士 猪ノ原武史 Inohara Takeshi



筑西市にある桐乃華工房で、猪ノ原さんは今日も木の板から桐下駄を削っています。茨城県指定の伝統工芸品を手がける三代目職人。祖父の代から70年以上続く家業で、かつて県西地域に100軒近くあった下駄工房は、今ではこの1軒だけになりました。静かな工房に響くのは、桐を削る乾いた音。

「カン、カン、カン。この音がこのまちから消えてしまうのは、やっぱりさみしいですね」。その言葉どおり、猪ノ原さんは今日も刃を入れ続けます。全国への卸や実演販売、高校での講習、明治神宮への奉納。下駄づくりの技を守り、次の世代へ手渡す日々です。

「この音が、誰かの暮らしにそっと寄り添えたら」。人の温かさを知る職人は、筑西市の通りに足音や暮らしの気配が重なり続けることを願いながら、手を動かしています。

■ 猪ノ原さんのおすそわけは、
桐下駄とその技術の素晴らしさを伝えていくことです。

連絡先は、TEL.0296-37-6108

桐乃華工房 筑西市関本上345